

IV-33 高齢者の交通挙動について

秋田大学 正員 清水浩志郎

秋田大学 学生員の本木 正直

1. はじめに

総理府統計局が発表した昭和57年10月1日現在における日本の推計人口によると、総人口は1億1869万人で、うち65歳以上の高齢人口は1135万人と、9.6%を占めた。これは厚生省人口問題研究所が56年11月に出した57年の予測値9.5%を上回るもので、人口の高齢化は一段と進行していく傾向にある。人口高齢化は先進国共通の傾向であるが、なかでも日本はその進行速度がきわめて急速である。現在欧米では、65歳以上の人口比率は10~15%であり、日本の人口高齢化がこのまま続けば、欧米を追い越して、いまだ世界のどの国も経験しなかった本格的な高齢化社会に突入するといわれている⁽¹⁾。

こうした高齢化社会は、知識や経験の豊富な、重厚で安定した社会、成熟した社会と考えることができる。そのため、定年年齢の引き上げ、雇用条件の改善などをはじめとして、高齢者の豊富な知識、経験を社会に生かしていくくみを確立することが重要となる。交通計画の立場でみれば、現在交通弱者として扱われる高齢者に積極的な社会への参加を促すためにも、そのモビリティを十分に確保する必要がある。

本報告は、以上のような認識に基づき、将来の高齢化社会における快適かつ安全な都市交通計画の策定を目標に、その第1段階として、アンケート調査から現在の都市交通に対する高齢者の反応を把握し、今後の高齢者のモビリティを考える上での基礎資料を得ることを目的としている。また、高齢者のモビリティの確保には、マストラや徒歩交通施設整備等、様々考えられるが、ここではとくに高齢者の自動車交通に着目している。現在の壮年層は20年後には高齢層となり、その多くが運転免許を持ち、就業していると考えられる。つまり、こうした高齢者の交通手段としては主に自動車を利用すると考えられ、高齢者も高いモビリティを持つと想像できる。しかし、高齢による視力や反射速度の低下、判断力の鈍化などにより、高齢ドライバーは一般のドライバーより危険が大きいとも考えられることから、同時に高齢者の交通事故の増加も予想される。日本医学会でも、とくに視覚の衰えが急速であり、視覚を重点とした高齢労働の基準を設けるなどの対応を急ぐべきであるとする提言がなされている。そこで筆者らは⁽²⁾、高齢ドライバーの安全を図るため、「高齢ドライバーマーク」の提案を試みている。これは「初心者マーク」と同様に、シンボルマーク等を設定してステッカー等にして車両に貼ることで、高齢者が運転していることを周囲のドライバーに知らしめると同時に、高齢者も安心して自動車を運転できるようにしようというのが目的である。

2. 秋田市における分析

アンケート調査は、筆者らの住む秋田市で、昭和57年11月から12月にかけて実施した。秋田市は昭和55年の国勢調査人口約285千人、うち65歳以上人口は約21千人で7.5%を占める。対象は市内老人クラブ等をはじめとする50歳以上の在宅者、老人ホーム入居者の男女で、495票配布し、441票を回収した。有効票は380票で、これを用いて以下のような分析を行った。

表-1に、60歳以上326人が一週間に外出したのべ927回について、外出目的別の利用交通手段を示した。これによれば、通勤目的の場合に自家用車の利用が過半数を占めるのに対し、他の目的ではバス、徒歩、自転車が多い。このことは、高齢の免許保有者の増加とともに、今後の高齢労働者の増加によって高齢ドライバーが激増するであろうことを示唆している。交通手段選択の理由をみると、「他の交通手段より速いから」「いつでも好きなとき利用できるから」と、そのモビリティの高いことをあげている。

次に、こうした高齢ドライバーが現在運転するときどのように感じているかを調べたところ、「若者の運転は乱暴である」「交通混雑がひどく、運転しにくい」といったことに不満が大きいことがわかった。また、「

自分の運転が周囲の迷惑になることがあるようだ」、「まわりから邪魔にされたり、警笛を鳴らされたたれしたことがある」といったことについては、「そういうことはない」との回答が過半数を占め、自分の運転に自信を持っているとみることができる。

この運転時における意識について、「全体的に運転はしにくいかどうか」を外的基準によって数値化理論 α Ⅱ類を適用した結果を表-2に示した。

さらに、「全体的に運転はしにくい」と他の項目それぞれとのクロス表から算出したAICの値からも検討を加えた。これらによれば、運転のしにくさに対する要因としては、歩行者が多いと感じるかどう、信号や標識の大きさや形が見にくいと感じるかどうかなどがあげられる。このことから、視覚の衰えは運転のしにくさに重大な影響をもたらすと予想でき、高齢ドライバーの安全を図る方策の必要性の大きいことがいえる。

そのひとつである、「高齢ドライバーマーク」の提案に対しては、概

ね賛成者が多い。とくに50歳代に比べて60歳以上で賛成者が多く、高齢になるほどこの提案が有用であると認めているものと考えることができる。今後、県警等の協力を求め、今秋にも実施してみたいと考えている。

3. むすび

高齢者のモビリティについて、とくに自動車交通に関する挙動・意識実態について、いくつかの示唆的な結果を得ることができた。今後さらに詳しく調査、分析を行い、将来の都市交通計画への基礎資料収集を進めていきたいと考えている。最後に、本報告をまとめるにあたり御協力いただいた秋田市役所、秋田県警、秋田県免許センター、秋田市老人クラブ連合会、聖徳会、松寿会、秋田卸センター、秋田中央卸売市場の関係各位に感謝の意を表する。

【参考文献】

(1) 建設省計画局、(財)首都圏労働者住宅協会、「高齢化社会に対応した居住地域の整備に関する調査報告書」昭和57年3月
(2) 清水、本木、佐々木、「高齢者のモビリティに関する調査・分析」昭和57年度東北支部技術研究発表会講演概要、土木学会東北支部、昭和58年3月
(3) 赤池弘次、「情報量規準AICとは何か」数理科学 No.153、昭和57年5月

表-1 外出目的別、利用した主な交通手段(60歳以上)

手段 目的	鉄道	バス	タクシー	自家用車	オートバイ	自転車	徒歩	その他	計
通勤	0 ^回 (0.0%)	21 ^回 (20.0%)	6 ^回 (5.7%)	53 ^回 (50.5%)	0 ^回 (0.0%)	19 ^回 (19.1%)	6 ^回 (5.7%)	0 ^回 (0.0%)	105 ^回 [11.3%]
買物	8 (2.7)	90 (30.9)	13 (4.5)	13 (4.5)	1 (0.3)	64 (22.0)	102 (35.1)	0 (0.0)	291 [31.4]
娯楽・ジャー ・スポーツ	0 (0.0)	15 (20.8)	5 (6.9)	13 (19.1)	0 (0.0)	18 (25.0)	20 (27.8)	1 (1.4)	72 [7.8]
訪問	3 (2.1)	30 (21.3)	19 (13.5)	24 (17.0)	0 (0.0)	32 (22.7)	33 (23.4)	0 (0.0)	141 [15.2]
通院	13 (5.2)	90 (36.1)	41 (16.5)	27 (10.8)	0 (0.0)	44 (17.7)	34 (13.7)	0 (0.0)	249 [26.9]
その他	2 (2.9)	27 (39.1)	11 (15.9)	8 (11.6)	1 (1.4)	6 (8.7)	13 (18.8)	1 (1.4)	69 [7.4]
計	26 (2.9)	273 (29.4)	95 (10.2)	138 (14.9)	2 (0.2)	183 (19.7)	208 (22.4)	2 (0.2)	927 [100.0]

※1週間に外出したのべ回数を示す。
※()は30コ比率、[]は74コ比率を表わす。

表-2 数値化理論 α Ⅱ類の適用結果

項目	レンジ ×10 ⁻¹ (順位)
①一方通行などの交通規制が多く運転しにくいかどうか	0.31
②速度規制などが多く運転しにくいかどうか	1.09
③信号や標識が多すぎ運転しにくいかどうか	1.18
④信号や標識の位置が見にくく運転しにくいかどうか	0.54
⑤信号や標識の大きさや形が見にくく運転しにくいかどうか	1.95 (3)
⑥歩道と車道が分離していない所が多く運転しにくいかどうか	0.65
⑦夜間、照明が暗く運転しにくいかどうか	0.75
⑧右折するときなど、後続車に迷惑をかけているようだと思うかどうか	0.70
⑨わり込んでくる車が多くて運転しにくい	1.18
⑩自分の運転が周囲の車の迷惑になることがあるようだと思うかどうか	1.25
⑪まわりから邪魔にされたり警笛を鳴らされたりすることがあるかどうか	1.69 (4)
⑫若者の運転は乱暴であると思うかどうか	2.40 (1)
⑬交通混雑がひどく運転しにくい	0.37
⑭他の車のスピードが速すぎ運転しにくい	0.65
⑮歩行者が多くて運転しにくい	2.02 (2)
⑯自転車が多くて運転しにくい	1.26 (5)
⑰横断歩道が少ないため運転しにくい	0.24
⑱歩行者が勝手な所を横断するので運転しにくい	0.9

※相関比0.8554、的中率93.7%

表-3 「高齢ドライバーマーク」に対する賛否

年齢 賛否	大いに 賛成する	どちらとも いえない	反対である	その他
50歳代	26.8%	48.8%	19.5%	4.9%
60歳以上	57.5	25.0	15.0	2.5
全体	42.0	37.0	17.3	3.7